

令和2年度 日本獣医師会獣医学術賞の受賞者及び受賞研究業績

本年度の日本獣医師会獣医学術賞の選考は、「獣医学術奨励賞」は日本獣医師会雑誌の平成30年8月号（第71巻第8号）から令和2年7月号（第73巻第7号）に掲載された原著・短報を対象に、「獣医学術功労賞」は推薦のあった永年の功労の業績の中から選考委員会において厳正に審査され、以下のとおり受賞者及び受賞研究業績を選考した。また、後日、本賞（賞状）及び協賛会社（日本全薬工業(株)、共立製薬(株)、日本ハム(株)）からの副賞（研究奨励金20万円）がそれぞれ受賞者に授与される（令和2年度の獣医学術賞の発表と授与式は、令和3年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会において実施予定。）。

※令和2年度 日本獣医師会獣医学術学会年次大会が開催中止となったことから、獣医学術学会年次大会において発表された地区学会長賞受賞講演の中から選考を行う「獣医学術学会賞」は、令和2年度における選考を行いませんでした。

令和2年度 日本獣医師会獣医学術賞受賞業績

【産業動物部門】

〔獣医学術奨励賞〕

市販の血清用キットを応用した乳汁エライザ法による抗牛白血病ウイルス抗体検出法の確立

小西美佐子（農研機構動物衛生研究部門）、他
 〈選考理由〉 本論文は、牛伝染性リンパ腫（牛白血病）清浄化のために不可欠な農場内の牛白血病ウイルス（BLV）の浸潤状況を確認するため、市販のELISAキットを用い、乳汁を検体とした検査法を検討したものである。本法は、バルク乳からの抗BLV抗体検出に適用できることを明らかにするとともに、乳汁を用いるために頻回採血の労力や牛のストレスを軽減することが可能であり、感染牛の有用な早期摘発法を提示したものであることから、獣医学術奨励賞として推薦する。

〔獣医学術功労賞〕

産業動物臨床における画像診断技術の普及活用に関する実証的研究

田浦保穂（山口大学・名誉教授）
 〈選考理由〉 田浦保穂氏は、脳脊髄疾患や運動器疾患をはじめ動物の老齢性疾患の診断と治療に関する研究などに取組み、多くの疾病で画像診断技術が有用であることを明らかにし、これら多くの研究成果を学術雑誌に公表した。また、現在でも山口大学共同獣医学部の教授（特命）を務めるなど、獣医学術の発展と後進の指導に尽力している。さらに同氏は、日本獣医師会の各種委員会委員、日本産業動物獣医学会の理事及び幹事として、本会と本学会の運営に多大な貢献をされたことから、獣医学術功労賞の授与が相応しいと判断した。

【小動物部門】

〔獣医学術奨励賞〕

犬の歯科X線検査における二等分面法の新たな入射角度決定法

小川祐生（アミカペットクリニック）、他
 〈選考理由〉 本論文は、従来の二等分面法と比較して同等の正確性と精度を有し、新しく、より簡便に犬の歯科X線検査を実施できる可能性を示した。これらの結果は、今後の獣医歯科学の発展にきわめて有用な情報提供であると思われることから、本論文を獣医学術奨励賞に推薦する。

〔獣医学術功労賞〕

伴侶動物がん医療における基礎及び臨床研究

丸尾幸嗣（岐阜大学・名誉教授）
 〈選考理由〉 丸尾幸嗣氏は、長年にわたり伴侶動物のがん疾患の病態解明・新規診断法・治療法の確立について研究を重ね、犬猫のがんの生物学的特性をOne Healthに基づく比較腫瘍学の観点から明らかにすることによって伴侶動物のがんの理解を深め、さまざまな診断法を組み合わせる的確な診断を下し、外科手術や放射線治療、化学療法を組み合わせる集学的治療を可能にした。また同氏は、これらの成果を各種国際誌に数多く発表するとともに、長年にわたって岐阜大学における臨床腫瘍学の教育を担い、わが国の伴侶動物がん治療の発展に寄与するとともに、日本小動物獣医学会副会長を務められ、日本獣医師会の学術活動や運営に多大な貢献をされたことから、獣医学術功労賞の授与が相応しいと判断した。

【公衆衛生部門】

〔獣医学術奨励賞〕

東京都内のペットショップで飼育されている 犬猫における動物由来感染症病原体保有状況調査

山崎翔子（東京都福祉保健局健康安全部），他
〈選考理由〉 本論文では，都内 54 のペットショップの犬（364 頭）及び猫（113 頭）について，低率ではあるが，*Campylobacter jejuni*，*Giardia intestinalis*，病原大腸菌，皮膚糸状菌を保有していることを明らかにした．このことは，身近なペットの犬・猫がこれらの感染症の感染源となり得る可能性を示しており，不特定多数の人が出入りするペットショップ内における防疫体制の整備と，徹底した衛生管理の必要性を示唆する公衆衛生上有用な論文であると判断されたことから，獣医学術奨励賞として推薦する．

〔獣医学術功労賞〕

“One Health” 実現に向けた細菌感染症対策に関する研究

田村 豊（酪農学園大学・名誉教授）

〈選考理由〉 田村 豊氏は，環境・動物・人の健康にかかわる“One Health”の視点から，特に細菌性食中毒の疫学や薬剤耐性菌の問題に取り組み，多くの研究業績を上げて公衆衛生の発展に貢献された．また，北海道獣医師会では副会長（学術担当）を務めたほか，日本獣医師会では学術・教育・研究委員会委員，薬剤対策推進検討委員会副委員長を歴任し，両会の運営に尽力された．以上の功績から，同氏は「獣医学術功労賞」を受賞するに相応しいと判断した．